

田島ヶ原サクラソウ自生地

約4.1haの自生地にはサクラソウをはじめ、ノウルシやチョウジソウなどの希少種も生育しています。昭和27年(1952)には、天然記念物の中でも特に重要なものとして特別天然記念物に指定され、屋久島のスギや北海道阿寒湖のマリモと同じように大変貴重な文化財です。

荒川流域には、かつて田島ヶ原のほかにもサクラソウ自生地が各所にあり、江戸時代から名勝地として親しまれていましたが、その後開発などで失われ、現在大きな規模のものは田島ヶ原が唯一です。田島ヶ原では国指定以来、その保護のために植生の管理や調査など様々な取り組みが行われています。

サクラソウ

サクラソウ (*Primula sieboldii* E.Morren) は、サクラソウ科の多年草で、環境省レッドリストでは準絶滅危惧種とされています。冷涼な気候を好む植物で、山地の谷川沿いや高原等に多く生育します。

花が美しく、さらに花の形や色などに遺伝的なちがいが多く生まれるため、江戸時代にサクラソウの園芸栽培が始まり流行しました。現在までに多様な品種が栽培されていますが、その多くが荒川流域のサクラソウ野生種を元に作られています。

田島ヶ原のサクラソウ野生種

形の大小や色の濃淡、花びらのすき間の広狭など、様々な変化が見られます。

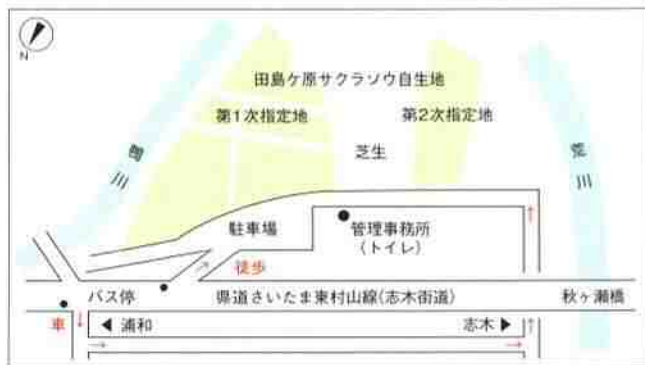


サクラソウの様々な園芸品種



自生地の1年

田島ヶ原のサクラソウは3月頃地上に芽を出し、花は4月中旬に見ごろをむかえます。その後サクラソウは実をつけ、6月頃に種子をおとして葉が枯れ、地下茎と根だけになります。この頃、自生地一面にオギやヨシが3m以上に育ち、強い日射しから地中のサクラソウを保護します。秋から冬にかけてオギやヨシが枯れると、人の手によって刈払いや草焼きが行われます。地表には再び日射しが当たるようになり、サクラソウは良好に生育することができます。田島ヶ原ではサクラソウとオギやヨシの関係、そして人々の関わりがあって、サクラソウに良い環境が作られています。



観察の際には次の注意事項をまもりましょう。

- 1 サクラソウ以外の植物も大切にしましょう。
自生地の動植物は採取しないでください。
- 2 柵が上がったり、中に入ったりするのはやめましょう。
三脚などカメラの機材も柵の中に入れてください。
- 3 ごみは持ち帰りましょう。
- 4 観察路にバイク、自転車などを乗り入れたり、ペットを連れ込んだりするのはやめましょう。



編集・発行 | さいたま市教育委員会 文化財保護課 電話 048-829-1723
作成協力・写真提供 | 磯田洋二氏

このパンフレットは、10,000部作成し、1部当たりの印刷経費は11円です。
2015.12



国指定特別天然記念物

田島ヶ原サクラソウ自生地

大正9年(1920)、日本で最初に指定された天然記念物の一つで、サクラソウ自生地として唯一の国指定です。約100万株のサクラソウをはじめ約250種の植物が自生し、野草の宝庫として季節を通して楽しめます。





ノウルシ
(トウダイグサ科)



ツボスミレ
(スマレ科)



チョウジソウ
(キョウチクトウ科)



ハンゲショウ
(ドクダミ科)



トモエソウ
(オトギリソウ科)



オギ
(イネ科)



ムラサキケマン
(ケシ科)



シロバナタンポポ
(キク科)



アマドコロ
(キジカクシ科)



クサフジ
(マメ科)



タカアザミ
(キク科)



ユウガギク
(キク科)

春

夏

秋

カキドオシ
(シソ科)



ヒキノカサ
(キンボウゲ科)



ヌマトラノオ
(サクラソウ科)



ノカンゾウ
(ススキノキ科)



ウマノスズクサ
(ウマノスズクサ科)



キンミズヒキ
(バラ科)



アマナ
(ユリ科)



ジロボウエンゴサク
(ケシ科)



ハナウド
(セリ科)



コバギボウシ
(キジカクシ科)



ガガイモ
(キョウチクトウ科)



センニンソウ
(キンボウゲ科)

